

令和 7 年度 地理歴史科 シラバス

科目	近代世界史	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	詳説世界史探究（山川出版社）				
補助教材等	詳説世界史探究整理ノート（山川出版社） 最新世界史図説タペストリー（帝国書院） 世界史用語集（山川出版社）。 世界史一問一答（山川出版社）				

1 学習の到達目標

① 世界の歴史の諸事象について、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を調べまとめる技能を身につけるようにする。 ② 世界の歴史の意味や意義を多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力をつける。 ③ 大学入試に向けて資料、図版の読み解き、思考力をつける。
--

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

① 世界の歴史の大きな枠組みを理解する。 ② 諸資料に基づき、地理的条件や同時代各地域の歴史と関連付けながら理解する。 ③ 歴史的思考力を培うために、因果関係を理解する。 ④ 教科書、準拠ノートを中心に、予復習をする。
--

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
主な評価方法	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5 6	近世ヨーロッパ世界の動向	教科書 資料集 整理ノート	30	1 ルネサンス 2 宗教改革 3 主権国家体制の成立 4 オランダ・イギリス・フランスの台頭 5 北欧・東欧の動向 6 科学革命と啓蒙思想	(a)学習内容を理解している。 (b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。 (c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
7 8 9	産業革命と環大西洋革命 イギリスの優位と欧米国民国家の形成	教科書 資料集 整理ノート	30	1 産業革命 2 アメリカ合衆国の独立と発展 3 フランス革命とナポレオンの支配 4 中南米諸国の独立 5 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動 6 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成 7 アメリカ合衆国の発展 8 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄	(a)学習内容を理解している。 (b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。 (c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
10 11 12	帝国主義とアジアの民族運動 第一次世界大戦と世界の変容	教科書 資料集 整理ノート	30	1 西アジア地域の変容 2 南アジア・東南アジアの植民地化 3 東アジアの激動 4 第一次世界大戦とロシア革命 5 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 6 アジア・アフリカ地域の民族運動	(a)学習内容を理解している。 (b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。 (c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
1 2	第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	教科書 資料集 整理ノート	15	1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊 2 第二次世界大戦 3 新しい国際秩序の形成	(a)学習内容を理解している。 (b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。 (c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。

令和 7 年度 地理歴史 科 シラバス

科 目	地誌	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	帝国書院『新詳 地理探究』、二宮書店『詳解現代地図』				
補助教材等	啓隆社『新地理要点ノート』 とうほう『新編地理資料2024』				

1 学習の到達目標

- 現代世界の地理的事象を系統地理的に学び、基本的な地理的認識を養う。
- 現代世界の地理的事象を地誌学的に学び、地域の特色や課題を認識する。
- 受験科目として対応できるように地理的な学力を高める。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

1, 図やグラフの読み取りと考察を重視する。

社会科目といえば、単に知識を得ることや暗記というイメージがあるかもしれませんが、地理は教科書の暗記では対応できません。文章や図、グラフから読み取りと、そこからの考察が必要です。ただ板書をノートに写すだけのような受け身の姿勢ではなく、「どんなことが考えられるか」ということを常に考えながら主体的に授業望むようにしましょう。

2, 基本的な事項は必ず覚える。

「考える」といっても基本的事項が身につけていなければ、考えることすらできません。基本的事項をきちんと覚える必要があります。基本的事項を頭に入れたうえで、それを関連づけながら資料や統計を考察し判断します。それをいかに柔軟に迅速にできるかが地理的な学力ということです。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	①基本的な地理的事項について理解できているか。 ②地理的事象を理解するうえで必要な資料の見方が身についているか。	①知識・技能を活用して地理的事象を考察することが出来ているか。 ②地理的事象の背景について適切に考察することが出来ているか。	①授業への取り組みが適切であるか。 ②現代社会の事象について、地理的に深めることが出来ているか。
主な評価方法	・定期考査 ・ワークシート 等 ・ ・	・定期考査（思考問題） ・ワークシート 等 ・ ・	・授業に対する取り組み ・ワークシートへの記述 等 ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5	現代世界の 系統地理的 考察		15	<ul style="list-style-type: none"> ・世界を結ぶ交通・通信 ・現代世界の貿易と経済圏 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の経済活動を地理的、グローバル的視点で理解できた…(a) ・現代の世界的な結びつきと、その影響による社会の変化についてまとめられている…(b) ・世界的な結びつきによって変化している様子を自らの生活と関連付けて考察している…(c)
6 7 8			27	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人口 ・人口問題 ・村落と都市 ・都市と居住問題 ・生活文化 ・民族と宗教 ・民族・領土問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代世界の国々が抱える人口問題・都市問題の内容を理解できた…(a) ・現代世界の国々が抱える問題について地誌的視点からまとめている…(b) ・現代世界の問題と解決策について考察することができた…(c)
9 10	現代世界の 地誌的考察		23	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジア ・東南アジア ・南アジア ・西アジア、中央アジア 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の諸地域を州・大陸規模の観点でみた地域の特徴を理解できた…(a) ・世界の地域についてそれぞれの国について動態地誌的視点から理解できた…(b) ・自分の気になる国や地域について、調べ、まとめることができた…(c)
11 12			20	<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ ・ヨーロッパ ・ロシア 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の諸地域を州・大陸規模の観点でみた地域の特徴を理解できた…(a) ・世界の地域についてそれぞれの国について動態地誌的視点から理解できた…(b) ・自分の気になる国や地域について、調べ、まとめることができた…(c)
1 2			20	<ul style="list-style-type: none"> ・アングロアメリカ ・ラテンアメリカ ・オセアニア 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の諸地域を州・大陸規模の観点でみた地域の特徴を理解できた…(a) ・世界の地域についてそれぞれの国について動態地誌的視点から理解できた…(b) ・自分の気になる国や地域について、調べ、まとめることができた…(c)

令和 7 年度 地理歴史科 シラバス

科目	発展世界史	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	詳説世界史探究（山川出版社）				
補助教材等	詳説世界史探究整理ノート（山川出版社） 最新世界史図説タペストリー（帝国書院） 世界史用語集（山川出版社）。 世界史一問一答（山川出版社） 世界史標準問題精講（旺文社）				

1 学習の到達目標

① 世界の歴史の諸事象について、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を調べまとめる技能を身につけるようにする。 ② 世界の歴史の意味や意義を多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力をつける。 ③ 大学入試に向けて資料、図版の読み解き、思考力をつける。 ④ 私立大学の問題にも対応できるように、実践的に問題を解く

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

①歴史的思考力を培うために、因果関係を理解する。 ②教科書、準拠ノートを中心に、予復習をする。 ③問題集を繰り返し、範囲を決めて復習する。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解していると同時に、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
主な評価方法	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5 6	第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	教科書 資料集 整理ノート 問題集	30	1 アジア・アフリカ地域の民族運動 2 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊	(a)学習内容を理解している。 (b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。 (c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
7 8 9	第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	教科書 資料集 整理ノート 問題集	30	1 第二次世界大戦 2 新しい国際秩序の形成	(a)学習内容を理解している。 (b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。 (c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
10 11 12	冷戦と第三世界の台頭	教科書 資料集 整理ノート 問題集	30	1 冷戦の展開 2 第三世界の台頭とキューバ危機 3 冷戦体制の動揺	(a)学習内容を理解している。 (b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。 (c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
1 2	冷戦の終結と今日の世界	教科書 資料集 整理ノート 問題集	15	1 産業構造の変容 2 冷戦の終結 3 今日の世界	(a)学習内容を理解している。 (b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。 (c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。

令和 7 年度 地理歴史 科 シラバス

科目	探求日本史	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	3年
使用教科書	教科書 「詳説日本史」(山川出版社)				
補助教材等	資料集 「日本史図表」(第一学習社)				

1 学習の到達目標

政治史・社会史の展開と合わせて、日本列島の文化について諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に考察させる。さらに各時代の歴史的背景に触れながら日本列島に展開した文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる自覚と資質を養う。共通テストに向け、問題演習を行う。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 3回の考査で知識、技能、思考、判断を図る
- 授業ごとの小テスト、グループワークを通じて主体的に学習に取り組む態度を図る

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているか。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察できているか。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察ができているか。
主な評価方法	3回の考査の知識問題	3回の考査の思考問題	グループワークや小テスト。普段の授業態度

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5	第1章～第3章 旧石器時代から奈良時代	上記参照	14	◎原始・古代の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を踏まえて学習する。 ◎文献資料に加えて、写真や映像等の資料を通じて文化の本質に迫る。	(a) 国家の形成と大和政権について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、形成過程や特色を理解している。 (b) 国家の形成と大和政権について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、形成過程や特色を多面的・多角的に考察している。 (c) 国家の形成と大和政権について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、形成過程や特色を主体的

					に追究している。
6	第4章～第7章 平安時代から室町時代		8	◎中世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を踏まえて学習する。 ◎文献資料に加えて、写真や映像等の資料を通じて文化の本質に迫る。	(a)中世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を理解している (b)中世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を多面的・多角的に追究している (c)中世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を主体的に追究している
7 8	第8章～第10章 江戸時代		8	◎近世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を踏まえて学習する。 ◎文献資料に加えて、写真や映像等の資料を通じて文化の本質に迫る。	(a)近世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を理解している (b)近世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を多面的・多角的に追究している (c)近世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を主体的に追究している
9	第11章～第12章 明治時代		8	◎近代の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を踏まえて学習する。 ◎文献資料に加えて、写真や映像等の資料を通じて文化の本質に迫る。	(a)近代の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を理解している (b)近代の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を多面的・多角的に追究している (c)近代の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を主体的に追究している
10	第13章～第15章		8	◎大正、昭和前期の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を踏まえて学習する。 ◎文献資料に加えて、写真や映像等の資料を通じて文化の本質に迫る。	(a)この時期の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を理解している (b)この時期の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を多面的・多角的に追究している (c)この時期の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を主体的に追究している
11	第16章～第18章		6	◎戦後の日本の民主化の過程における文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を踏まえて学習する。 ◎文献資料に加えて、写真や映像等の資料を通じて文化の本質に迫る。	(a)日本の民主化の過程の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を理解している (b)日本の民主化の過程の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を多面的・多角的に追究している (c)日本の民主化の過程の文化的特徴について、当時の政治・社会的

					背景や国際関係を主体的に追究している
12 1	特編授業		12	<p>◎全ての時代の過程における政治・社会的背景や国際関係を踏まえて復習する。</p> <p>◎文献資料に加えて、写真や映像等の資料を通じて大学入試への対応力涵養を図る。</p>	<p>(a)すべての時代の特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を理解している</p> <p>(b)すべての時代の特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を多面的・多角的に追究している</p> <p>(c)すべての時代の特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を主体的に追究している</p>

令和 7 年度 地理歴史 科 シラバス

科 目	発展日本史	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	3年
使用教科書	教科書 「詳説日本史」(山川出版社)				
補助教材等	資料集「新詳日本史」(浜島書店)、史料集「新編史料日本史」(とうほう)				

1 学習の到達目標

政治史・社会史の展開と合わせて、日本列島の文化について諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に考察させる。さらに各時代の歴史的背景に触れながら日本列島に展開した文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる自覚と資質を養う。適宜、発展的問題演習を行う。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 3回の考查で知識、技能、思考、判断を図る
- 授業ごとの小テスト、グループワークを通じて主体的に学習に取り組む態度を図る

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているか。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察できているか。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察ができているか。
主な評価方法	3回の考查の知識問題	3回の考查の思考問題	小テスト、グループワーク。普段の授業態度

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 5	第1章～第3章 旧石器時代から奈良時代	上記参照	21	◎原始・古代の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を踏まえて学習する。 ◎文献資料に加えて、写真や映像等の資料を通じて文化の本質に迫る。	(a) 国家の形成と大和政権について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、形成過程や特色を理解している。 (b) 国家の形成と大和政権について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、形成過程や特色を多面的・多角的に考察している。 (c) 国家の形成と大和政権について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、形成過程や特色を主体的

					に追究している。
6	第4章～第7章 平安時代から室町時代		12	◎中世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を踏まえて学習する。 ◎文献資料に加えて、写真や映像等の資料を通じて文化の本質に迫る。	(a)中世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を理解している (b)中世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を多面的・多角的に追究している (c)中世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を主体的に追究している
7 8	第8章～第10章 江戸時代		12	◎近世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を踏まえて学習する。 ◎文献資料に加えて、写真や映像等の資料を通じて文化の本質に迫る。	(a)近世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を理解している (b)近世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を多面的・多角的に追究している (c)近世の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を主体的に追究している
9	第11章～第12章 明治時代		12	◎近代の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を踏まえて学習する。 ◎文献資料に加えて、写真や映像等の資料を通じて文化の本質に迫る。	(a)近代の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を理解している (b)近代の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を多面的・多角的に追究している (c)近代の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を主体的に追究している
10	第13章～第15章		12	◎大正、昭和前期の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を踏まえて学習する。 ◎文献資料に加えて、写真や映像等の資料を通じて文化の本質に迫る。	(a)この時期の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を理解している (b)この時期の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を多面的・多角的に追究している (c)この時期の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を主体的に追究している
11	第16章～第18章		9	◎戦後の日本の民主化の過程における文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を踏まえて学習する。 ◎文献資料に加えて、写真や映像等の資料を通じて文化の本質に迫る。	(a)日本の民主化の過程の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を理解している (b)日本の民主化の過程の文化的特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を多面的・多角的に追究している (c)日本の民主化の過程の文化的特徴について、当時の政治・社会的

					背景や国際関係を主体的に追究している
12 1	特編授業		18	<p>◎全ての時代の過程における政治・社会的背景や国際関係を踏まえて復習する。</p> <p>◎文献資料に加えて、写真や映像等の資料を通じて大学入試への対応力涵養を図る。</p>	<p>(a)すべての時代の特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を理解している</p> <p>(b)すべての時代の特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を多面的・多角的に追究している</p> <p>(c)すべての時代の特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を主体的に追究している</p>

令和 7 年度 地理歴史 科 シラバス

科 目	探求地理	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	帝国書院『新詳 地理探究』、二宮書店『詳解現代地図』				
補助教材等	啓隆社『新地理要点ノート』 とうほう『新編地理資料 2024』				

1 学習の到達目標

- 現代世界の地理的事象を系統地理的に学び、基本的な地理的認識を養う。
- 様々な地理的事象に関して、その要因や影響について理解し、表現できる。
- 受験科目として対応できるように地理的な学力を高める。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

1, 図やグラフの読み取りと考察を重視する。

社会科目といえば、単に知識を得ることや暗記というイメージがあるかもしれませんが、地理は教科書の暗記では対応できません。文章や図、グラフから読み取りと、そこからの考察が必要です。ただ板書をノートに写すだけのような受け身の姿勢ではなく、「どんなことが考えられるか」ということを常に考えながら主体的に授業望むようにしましょう。

2, 基本的な事項は必ず覚える。

「考える」といっても基本的事項が身についていなければ、考えることすらできません。基本的な事項をきちんと覚える必要があります。基本的事項を頭に入れたうえで、それを関連づけながら資料や統計を考察し判断します。それをいかに柔軟に迅速にできるかが地理的な学力ということです。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	①基本的な地理的事項について理解できているか。 ②地理的事象を理解するうえで必要な資料の見方が身についているか。	①知識・技能を活用して地理的事象を考察することが出来ているか。 ②地理的事象の背景について適切に考察することが出来ているか。	①授業への取り組みが適切であるか。 ②現代社会の事象について、地理的に深めることが出来ているか。
主な評価方法	・定期考査 ・ワークシート 等 ・ ・	・定期考査（思考問題） ・ワークシート 等 ・ ・	・ペアワーク、グループワークへの取り組み ・ワークシートへの記述 等 ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5	第1章 自然環境		12	<ul style="list-style-type: none"> ・地形 ・気候 ・地球環境問題 	<p>(a)世界でみられる地形や気候区分を理解している。</p> <p>(b)地形の形成要因や気候区分の分類について、相互にかかわる様々な事象を用いて説明ができる。</p> <p>(c)地球環境問題が与える影響、解決への取り組みについて主体的に追究している。</p>
6	第2章 資源と産業		8	<ul style="list-style-type: none"> ・農林水産業 ・食糧問題 ・エネルギー・鉱産資源 ・工業 ・第三次産業 	<p>(a)農業分布や資源分布、産業の発達の過程について理解している。</p> <p>(b)産業の発達がどのようにみられるのか、地域の特徴や歴史的視点も踏まえ説明することができる。</p> <p>(c)産業の発達による人々の生活の変化について、自らの生活と結び付けながら主体的に追究している。</p>
7 8	第3章 交通・通信 と観光、貿易		10	<ul style="list-style-type: none"> ・交通, 通信 ・観光 ・貿易 	<p>(a)世界でみられる地形や気候区分を理解している。</p> <p>(b)国際社会の変化や技術の発達により、世界がどのように結びついているかを説明できる。</p> <p>(c)世界の結びつきの変化をとらえ、自らの生活に与える影響や今後の変化について主体的に追究している。</p>
9 10	第4章 人口、村落・都市		16	<ul style="list-style-type: none"> ・人口, 人口問題 ・村落, 都市 ・都市, 居住問題 	<p>(a)世界の人口形態や、都市の形成について理解している。</p> <p>(b)世界各地でみられる人口問題や都市問題について、共通性をもとに、発生要因を説明ができる。</p> <p>(c)人口問題や都市問題を解決するための取り組みについて主体的に追究している。</p>
11 12 1	第5章 生活文化、 民族・宗教		18	<ul style="list-style-type: none"> ・民族, 宗教 ・民族問題 ・領土問題 	<p>(a)世界の民族・宗教やその分布を理解している。</p> <p>(b)民族問題や領土問題の発生要因、世界全体に与える影響について考え、説明することができる。</p> <p>(c)世界平和や多文化の共生のために必要な取り組み等について主体的に追究している。</p>

令和 7 年度 地理歴史 科 シラバス

科 目	発展地理	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	帝国書院『新詳 地理探究』、二宮書店『詳解現代地図』				
補助教材等	啓隆社『新地理要点ノート』 とうほう『新編地理資料2024』				

1 学習の到達目標

- 現代世界の地理的事象を系統地理的に学び、基本的な地理的認識を養う。
- 様々な地理的事象に関して、その要因や影響について理解し、表現できる。
- 受験科目として対応できるように地理的な学力を高める。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

1, 図やグラフの読み取りと考察を重視する。

社会科目といえば、単に知識を得ることや暗記というイメージがあるかもしれませんが、地理は教科書の暗記では対応できません。文章や図、グラフから読み取りと、そこからの考察が必要です。ただ板書をノートに写すだけのような受け身の姿勢ではなく、「どんなことが考えられるか」ということを常に考えながら主体的に授業望むようにしましょう。

2, 基本的な事項は必ず覚える。

「考える」といっても基本的事項が身についていなければ、考えることすらできません。基本的な事項をきちんと覚える必要があります。基本的事項を頭に入れたうえで、それを関連づけながら資料や統計を考察し判断します。それをいかに柔軟に迅速にできるかが地理的な学力ということです。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの 評価の観点 の趣旨	①基本的な地理的事項について理解できているか。 ②地理的事象を理解するうえで必要な資料の見方が身についているか。	①知識・技能を活用して地理的事象を考察することが出来ているか。 ②地理的事象の背景について適切に考察することが出来ているか。	①授業への取り組みが適切であるか。 ②現代社会の事象について、地理的に深めることが出来ているか。
主な評価方法	・定期考査 ・ワークシート 等 ・ ・	・定期考査（思考問題） ・ワークシート 等 ・ ・	・ペアワーク、グループワークへの取り組み ・ワークシートへの記述 等 ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5	第1章 自然環境		15	<ul style="list-style-type: none"> ・地形 ・気候 ・地球環境問題 	<p>(a)世界でみられる地形や気候区分を理解している。</p> <p>(b)地形の形成要因や気候区分の分類について、相互にかかわる様々な事象を用いて説明ができる。</p> <p>(c)地球環境問題が与える影響、解決への取り組みについて主体的に追究している。</p>
5 6	第2章 資源と産業		15	<ul style="list-style-type: none"> ・農林水産業 ・食糧問題 ・エネルギー・鉱産資源 ・工業 ・第三次産業 	<p>(a)農業分布や資源分布、産業の発達の過程について理解している。</p> <p>(b)産業の発達がどのようにみられるのか、地域の特徴や歴史的視点も踏まえ説明することができる。</p> <p>(c)産業の発達による人々の生活の変化について、自らの生活と結び付けながら主体的に追究している。</p>
7 8	第3章 交通・通信 と観光、貿易		18	<ul style="list-style-type: none"> ・交通, 通信 ・観光 ・貿易 	<p>(a)世界でみられる地形や気候区分を理解している。</p> <p>(b)国際社会の変化や技術の発達により、世界がどのように結びついているかを説明できる。</p> <p>(c)世界の結びつきの変化をとらえ、自らの生活に与える影響や今後の変化について主体的に追究している。</p>
9 10	第4章 人口、村落・都市		22	<ul style="list-style-type: none"> ・人口, 人口問題 ・村落, 都市 ・都市, 居住問題 	<p>(a)世界の人口形態や、都市の形成について理解している。</p> <p>(b)世界各地でみられる人口問題や都市問題について、共通性をもとに、発生要因を説明ができる。</p> <p>(c)人口問題や都市問題を解決するための取り組みについて主体的に追究している。</p>
11 12 1	第5章 生活文化、 民族・宗教		30	<ul style="list-style-type: none"> ・民族, 宗教 ・民族問題 ・領土問題 	<p>(a)世界の民族・宗教やその分布を理解している。</p> <p>(b)民族問題や領土問題の発生要因、世界全体に与える影響について考え、説明することができる。</p> <p>(c)世界平和や多文化の共生のために必要な取り組み等について主体的に追究している。</p>

令和 7 年度 公民科 シラバス

科 目	発展公共	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	「公共」（東京書籍）				
補助教材等	「最新公共資料集 2024」（第一学習社）「4 ステージ演習ノート公共」（数研出版）				

1 学習の到達目標

<p>① 2 学年で必修 2 単位で学習した公共を基礎に、現代の諸課題を更に深く考察し、選択、判断するための手がかりとなる概念とともに、倫理的主体として活動するために必要となる情報を適切に調べ、まとめる技能を身に付ける。</p> <p>② 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を多面的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを他者に伝達する力も養う。</p> <p>③ よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方、生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権をになう公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ること及び昨今の国際紛争にも鑑み、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深める。</p>
--

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

<ul style="list-style-type: none"> ○新聞などにも目を通し、現代社会で起きている諸問題に興味を持つように心がけよう。 ○教科書、資料集を読み込み、予復習に力を入れよう。 ○問題集を繰り返し解き、実際に問題を解く力を身に着けよう。
--

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	現代の諸課題を捉え、考察し、判断するための手がかりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択、判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用し、事実を多角的に考察し正しく判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したり表現したりできる。	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい社会の実現を視野に、公共的な空間に生き、主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行うなかで、自らの学力を向上しようとしている。

主な評価方法	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度
--------	------------------------------	------------------------------	------------------------------

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5 6	第1部「公共」のとびら 第2部 自立した主体として社会に参画する私たち	教科書 資料集 演習ノート 問題集	33	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期と自己形成の課題 ・自己形成と社会への参画 ・個人として尊重される人間 ・公共的空間における協働とは 	<p>(a)学習内容を理解している。 (b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>(c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>
7 8 9	第1章 民主政治と私たち 第2章 法の働きと私たち	教科書 資料集 演習ノート 問題集	19	<ul style="list-style-type: none"> ・民主主義の成立過程 ・立憲主義とは何か、憲法と法律 ・国会、内閣、裁判所、地方自治 ・政治参加と選挙制度 	<p>(a)学習内容を理解している。 (b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>(c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>
10 11 12	第3章 経済社会で生きる私たち 第4章 私たちの職業生活	教科書 資料集 演習ノート 問題集	17	<ul style="list-style-type: none"> ・市場経済の仕組み ・国民所得と経済成長 ・財政・金融のしくみとはたらき ・労働者の権利と雇用、労働問題 	<p>(a)学習内容を理解している。 (b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>(c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>
1 2	第5章 国際社会のなかで生きる私たち	教科書 資料集 演習ノート 問題集	15	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の成り立ち ・国際連合の役割 ・国際社会と平和主義 ・冷戦後の世界と日本 	<p>(a)学習内容を理解している。 (b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>(c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>

令和 7 年度 数学科 シラバス

科目	発展数学	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	3 学年・文系
使用教科書	共通テスト分野別演習 数学 I・A/II・B・C (Z会)				
補助教材等	新課程チャート式大学入学共通テスト対策 数学 I A+II B C (数研出版)				

1 学習の到達目標

数学 I・A および 数学 II・B・C の内容を理解し、諸課題についてその学習内容を活かしながら、思考できる態度と応用力を身に着ける。また、科目間のつながりを理解し、同じ問題を複数の方法で解いたり、解答を検証する力をつける。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

○問題を解き、答え合わせをして、何がわかっていなかったのか、どう考えればよかったのか等、正解かどうかだけでなく、今後の思考に活かせる考え方を身につけるようにする。

○同じ問題を別の方法で解くことができないか考える。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	数学 I・A・II・B・C の基本事項の知識を使って基本問題を解くことができる。	思考力・判断力が必要な問題に対して、科目横断的な考え方も利用し問題を解くことができる。また、記述式の解答についても必要事項を漏らさずに記述することができる。	一つの問題に対して複数の解き方を考えて解こうとしている。得た知識を他の問題に応用しようとしている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ 提出課題 ・ 発問評価 ・ 授業態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ 提出課題 ・ 発問評価 ・ 授業態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ 提出課題 ・ 発問評価 ・ 授業態度

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5	Ⅱ	共通テスト分野別演習 数学Ⅰ・ A / Ⅱ・ B・C	21	第12章 微分・積分 第11章 三角関数 第10章 指数関数・対数関数	(a) 学習内容を理解している。 (b) 学習内容を応用問題に活かしている。 (c) 学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
6	Ⅱ	共通テスト分野別演習 数学Ⅰ・ A / Ⅱ・ B・C	12	第9章 図形と方程式 第8章 式と証明・高次方程式	(a) 学習内容を理解している。 (b) 学習内容を応用問題に活かしている。 (c) 学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
7 8 9	B C I	共通テスト分野別演習 数学Ⅰ・ A / Ⅱ・ B・C	24	第13章 数列 第15章 ベクトル 第1章 方程式と不等式 第2章 集合と論理 第3章 図形と計量	(a) 学習内容を理解している。 (b) 学習内容を応用問題に活かしている。 (c) 学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
10 11	I A	共通テスト分野別演習 数学Ⅰ・ A / Ⅱ・ B・C	21	第4章 2次関数 第5章 データの分析 第6章 図形の性質 第7章 場合の数と確率	(a) 学習内容を理解している。 (b) 学習内容を応用問題に活かしている。 (c) 学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
12 1	B C	共通テスト分野別演習 数学Ⅰ・ A / Ⅱ・ B・C	18	第14章 統計的な推測 第16章 平面上の曲線 第17章 複素数平面	(a) 学習内容を理解している。 (b) 学習内容を応用問題に活かしている。 (c) 学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
2	総合問題	共通テスト分野別演習 数学Ⅰ・ A / Ⅱ・ B・C	9	総合問題演習	(a) 学習内容を理解している。 (b) 学習内容を応用問題に活かしている。 (c) 学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。

令和 7 年度 数学科 シラバス

科目	発展数学	単位数	5	履修学年・クラス (講座)	3 学年・理系
使用教科書	共通テスト分野別演習 数学 I・A/II・B・C (Z会)				
補助教材等	新課程チャート式大学入学共通テスト対策 数学 I A+II B C (数研出版)				

1 学習の到達目標

数学 I・A および 数学 II・B・C の内容を理解し、諸課題についてその学習内容を活かしながら、思考できる態度と応用力を身に着ける。また、科目間のつながりを理解し、同じ問題を複数の方法で解いたり、解答を検証する力をつける。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

○問題を解き、答え合わせをして、何がわかっていなかったのか、どう考えればよかったのか等、正解かどうかだけでなく、今後の思考に活かせる考え方を身につけるようにする。

○同じ問題を別の方法で解くことができないか考える。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	数学 I・A・II・B・C の基本事項の知識を使って基本問題を解くことができる。	思考力・判断力が必要な問題に対して、科目横断的な考え方も利用し問題を解くことができる。また、記述式の解答についても必要事項を漏らさずに記述することができる。	一つの問題に対して複数の解き方を考えて解こうとしている。得た知識を他の問題に応用しようとしている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ 提出課題 ・ 発問評価 ・ 授業態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ 提出課題 ・ 発問評価 ・ 授業態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ 提出課題 ・ 発問評価 ・ 授業態度

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5	数学 Ⅱ	共通テスト分野別演習 数学Ⅰ・ A / Ⅱ・ B・C	35	第12章 微分・積分 第11章 三角関数 第10章 指数関数・対数関数	(a) 学習内容を理解している。 (b) 学習内容を応用問題に活かしている。 (c) 学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
6	数学 Ⅱ	共通テスト分野別演習 数学Ⅰ・ A / Ⅱ・ B・C	20	第9章 図形と方程式 第8章 式と証明・高次方程式	(a) 学習内容を理解している。 (b) 学習内容を応用問題に活かしている。 (c) 学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
7 8 9	数学 B 数学 C 数学 I	共通テスト分野別演習 数学Ⅰ・ A / Ⅱ・ B・C	40	第13章 数列 第15章 ベクトル 第1章 方程式と不等式 第2章 集合と論理 第3章 図形と計量	(a) 学習内容を理解している。 (b) 学習内容を応用問題に活かしている。 (c) 学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
1 0 1 1	数学 I 数学 A	共通テスト分野別演習 数学Ⅰ・ A / Ⅱ・ B・C	35	第4章 2次関数 第5章 データの分析 第6章 図形の性質 第7章 場合の数と確率	(a) 学習内容を理解している。 (b) 学習内容を応用問題に活かしている。 (c) 学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
1 2 1	数学 B 数学 C	共通テスト分野別演習 数学Ⅰ・ A / Ⅱ・ B・C	30	第14章 統計的な推測 第16章 平面上の曲線 第17章 複素数平面	(a) 学習内容を理解している。 (b) 学習内容を応用問題に活かしている。 (c) 学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
2	総合 問題	共通テスト分野別演習 数学Ⅰ・ A / Ⅱ・ B・C	15	総合問題演習	(a) 学習内容を理解している。 (b) 学習内容を応用問題に活かしている。 (c) 学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。

令和 7 年度 理 科 シラバス

科 目	探求物理	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	3 学年
使用教科書	物理 (東京書籍)、物理基礎 (東京書籍)				
補助教材等	エクセル物理 (実教出版)、レッツトライノート物理 (実教出版)				

1 学習の到達目標

<p>①1 年次で学習した物理基礎と 2 年次での物理を発展させ、現代社会の基盤となっている電磁気学を学び、さらに原子物理学まで学習し理解する。</p> <p>②様々な物理現象に興味を持ち、主体的にそこにある法則を探求しようとする態度と、科学的に物事を見る目を養う。</p>

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

<p>○物理はこの世の中にあるすべての物体と現象について、そこにある法則を解き明かしていく学問です。ですから、科学全般に常に興味を持ちましょう。そして、どうしてそうなるかを考えましょう。その時に大切なのは「想像力」です。正しいイメージが持てるようにしましょう。</p> <p>○物理を記述するのは「数学」です。数学が苦手な人はそれをまず克服しましょう。</p> <p>○授業でやったことは必ず復習して覚えましょう。特に、重要用語や重要公式を覚えてないと何もできません。</p> <p>○受験に向けての学習は「自ら学ぶ」ことが大切です。家庭学習・受験勉強は必ずしましょう。また、予習のように授業を先行して勉強していったり構いません。そのくらいでないと身に付きません。</p>
--

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	様々な物理現象とその法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な数学的理解と実験に関する基本的な技能を身に付けているか。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける家庭において、粘り強く学習に取り組んでいるか。また、自ら学習を調製しようとしているか。
主な評価方法	・定期テストにおいて評価する	・定期テストや課題・レポートにおいて評価する。	・授業へ取り組む態度と課題への取り組みを評価する。

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	静電気力 電場 電位 コンデンサー	教科書 問題集 授業プリント	9	<ul style="list-style-type: none"> ・静電気力に関するクーロンの法則を理解させる。 ・電荷の周囲にできる電場について理解させる。 ・コンデンサーについて理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(a)クーロンの法則を理解し関係式を正しく使える。電場がベクトル量であることを理解し、電場の向きや大きさを求めることができる。電位について理解し、様々な関係式を正しく適用できる。コンデンサーの基本公式を正しく適用できる。

				<ul style="list-style-type: none"> ・(b)クーロン法則について説明できる。電気力線について説明できる。電場について説明できる。平行板コンデンサーについて説明できる。 ・(c)身近な現象から静電気について興味・関心を持ち、理解しようとしている。電場や電位について興味・関心を示している。コンデンサーの利用例などに興味・関心を持ち、コンデンサーの性質などを理解しようとしている。 	
5	電流 直流回路 磁場 電磁力 ローレンツ力	教科書 問題集 授業プリント	12	<ul style="list-style-type: none"> ・オームの法則を理解させる。 ・複雑な直流回路に関して、キルヒフオフィの法則を理解させる。 ・電流が作る磁場について理解させる。 ・電流が磁場から受ける力を理解させる。 ・荷電粒子が磁場から受ける力を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(a)オームの法則を始めとする基本的な指揮を適切に使用できる。キルヒフオフィの法則を正しく適用できる。磁気力に関するクーロンの法則を理解している。電流がつくる磁場を理解している。フレミングの左手の法則について理解している。ローレンツ力について理解している。 ・(b)電圧降下とは何か説明できる。素子の内部抵抗について説明できる。磁石の性質について説明できる。電流が作る磁場について説明できる。フレミングの左手の法則が正しく適用できる。ローレンツ力を説明できる。 ・(c)電流の中れ方が物質やつなぎ方によってどのように異なるかということに興味を持っている。抵抗を流れる電流御向きと大きさに興味を示している。磁石の性質に興味を示し、身近な者との関連を考えることができる。導線に電流を流すと周囲に磁場ができることに興味を示し学ぼうとしている。
6	電磁誘導 交流 電磁波	教科書 問題集 授業プリント	12	<ul style="list-style-type: none"> ・ファラデーの電磁誘導の法則について理解させる。 ・交流がどのように発生するか理解させる。 ・RLC 直列回路について理解させる。 ・共振回路について理解させる。 ・電磁波の発生と電磁波の種類について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(a)電磁誘導について理解し、関係式を正しく適用できる。交流発生メカニズムを理解している。交流電圧・交流電流について理解している。リアクタンス、インピーダンスについて理解している。共振回路や電気振動を理解している。電磁波について理解している。 ・(b)ファラデーの電磁誘導の法則やレンツの法則を説明できる。交流電圧・交流電流について説明できる。素子を流れる交流電流の位相差について説明できる。電磁波の発

					<p>生原理について説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(c)電磁誘導に興味を示している。交流を理解しようとする意欲が見られる。交流回路について学ぼうとする意欲が見られる。生活の中で使用している電磁波に興味を持ち、電磁波について理解しようとしている。
7	電子 光電効果 X線	教科書 問題集 授業プリント	9	<ul style="list-style-type: none"> ・陰極線を理解し、トムソンの実験とミリカンの実験を理解させる。 ・光電効果について理解させる。 ・X線の発生と粒子の波動性について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(a)陰極線について理解している。比電荷の測定について理解している。ミリカンの実験について理解している。光電効果について理解している。X線の性質と特徴を理解している。X線回折について理解している。物質波について理解している。 ・(b)比電荷と電気素量から電子の質量を算出する方法を説明できる。光電効果を説明できる。X線開設とコンプトン効果について説明できる。電子の波動性について説明できる。 ・(c)電子について興味を持ち、電子の性質について理解しようとしている。光の粒子性に興味を関心を示している。X線について関心を示し、理解しようとしている。粒子の波動性と粒子性について興味を持っている。
8	原子の構造 原子核	教科書 問題集 授業プリント	3	<ul style="list-style-type: none"> ・原子の構造を科学史の視点から理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(a)電子のエネルギー準位について理解している。核子の個数を計算できる。放射性崩壊と半減期について理解している。 ・(b)電子のエネルギー準位について説明できる。同位体について説明できる。放射線の種類や原子核崩壊について説明できる。 ・(c)原子の構造とエネルギー準位に興味を示している。同位体について興味を示している。放射線について理解しようとしている。
9	核反応 素粒子	教科書 問題集 授業プリント	12	<ul style="list-style-type: none"> ・原子の核分裂反応と核融合反応を理解させる。 ・素粒子を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(a)核反応式を書くことができる。素粒子の分類について理解している。 ・(b)核分裂と核融合を説明できる。クォークについて説明できる。 ・(c)核エネルギーについて興味を示している。物質の根源的な粒子について興味を示している。

10	総合問題演習	教科書 問題集 授業プリント	12	全範囲	(a)問題演習によって発見した不足している知識・技能を自身でまとめる。しゅう (b)問題演習によって発見した苦手分野についてどのようにすれば克服できるかを考える。 (c)問題演習によって発見した気づきや苦手分野を自身でまとめる。
11	総合問題演習	教科書 問題集 授業プリント	9	全範囲	(a)問題演習によって発見した不足している知識・技能を自身でまとめる。しゅう (b)問題演習によって発見した苦手分野についてどのようにすれば克服できるかを考える。 (c)問題演習によって発見した気づきや苦手分野を自身でまとめる。
12	総合問題演習	教科書 問題集 授業プリント	9	全範囲	(a)問題演習によって発見した不足している知識・技能を自身でまとめる。しゅう (b)問題演習によって発見した苦手分野についてどのようにすれば克服できるかを考える。 (c)問題演習によって発見した気づきや苦手分野を自身でまとめる。
1	総合問題演習	教科書 問題集 授業プリント	9	全範囲	(a)問題演習によって発見した不足している知識・技能を自身でまとめる。しゅう (b)問題演習によって発見した苦手分野についてどのようにすれば克服できるかを考える。 (c)問題演習によって発見した気づきや苦手分野を自身でまとめる。
2	総合問題演習	教科書 問題集 授業プリント	9	全範囲	(a)問題演習によって発見した不足している知識・技能を自身でまとめる。しゅう (b)問題演習によって発見した苦手分野についてどのようにすれば克服できるかを考える。 (c)問題演習によって発見した気づきや苦手分野を自身でまとめる。

令和 7 年度 理 科 シラバス

科 目	探求生物	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	3 学年
使用教科書	生物 (数研出版)				
補助教材等	スクエア最新図説生物 (第一学習社) リードα生物基礎+生物 (数研出版)				

1 学習の到達目標

1. 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。
2. 観察、実験などを行い、科学的に探求する力を養う。
3. 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度と、生命を尊重しつつ、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 内容量が多く、知識を深めながら構造・現象を理解する科目です。時間をかけ地道に復習を繰り返すことで成果を上げることができます。そういう意味では努力が報われる科目といえます
- 生物は遺伝子工学、バイオテクノロジーの分野を中心に急速な発展を見せています。これから新しい発見や発明が期待される学問です。単に受験科目の1つとしてみるのではなく、是非、生命現象に対する好奇心を原動力として学習に取り組んでみてください。
- ただプリントを埋めるだけでなく、自分の知識と結びつけたり、自分自身との関連性を見いだしたりしながら「なぜそうなのか。」「どうしてそうなるのか。」と常に主体的な姿勢を持ちたいものです。
- 授業で触れた図やグラフは実際に自分で色分けしながらノートに書いてみると、視覚的にも理解が深まります。
- 副教材の問題集も復習に活用してください。考えて解くことで、重要なことがよりしっかりとした記憶として残るはずです。
- 授業からちょっと離れて、自分が興味を持った分野に関連した一般書も読んでほしいと思います。大きな視野で生物が捉えられますし、生物に関する知識や理解が幅広いものとなり、生物学的センスが磨かれます。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	生命現象と生物を取り巻く環境についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。
主な評価方法	・定期テストにおいて評価する	・定期テストやレポートにおいて評価する	・授業や家庭学習において、課題への取り組みを評価する

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4	第5章 動物の反応と行動 1. 刺激の受容 2. ニューロンとその興奮	教科書 図説 問題集 授業プリント	9	視覚は、眼の網膜で受容された光刺激の情報が、神経によって脳に伝えられて生じることを理解する。受容器の種類によって、刺激を受け取るしくみがそれぞれ異なることを理解する。 ヒトの神経系が、末しょう神経系と中枢神経系から構成されていることを理解する。ヒトの脳の構造とはたらきについて理解する。	・眼の網膜で受容された光刺激の情報が、神経によって脳に伝えられ、視覚が生じることを理解している。a ・ヒトの視覚経路の構造について理解し、視神経を切断した場合の見え方と関連づけて説明することができる。b ・ニューロンに生じた興奮が次のニューロンへと伝えられるまでの過程を理解している。a ・神経筋標本による実験の資料に基づき、伝導や伝達に要する時間を計算することができる。b
5	3. 情報の統合 4. 刺激への反応	教科書 図説 問題集 授業プリント	12	ヒトの神経系が、末しょう神経系と中枢神経系から構成されていることを理解する。ヒトの脳の構造とはたらきについて理解する。 効果器である筋肉の構造を理解する。筋肉が、神経系から伝達されてきた刺激を受け取って収縮するしくみを理解する。	・ヒトの神経系の構成について理解している。a ・反射が無意識のうちに起こる理由を、興奮の伝達経路と関連づけながら説明することができる。b ・筋肉が、神経系から伝達してきた刺激を受け取って収縮するしくみを理解している。a
6	5. 動物の行動 第6章 植物の環境応答 1. 植物の生活と植物ホルモン	教科書 図説 問題集 授業プリント	12	動物の行動は、遺伝的にプログラムされた生得的な行動と経験によって変化する学習行動によって形成されることを理解する。 植物は、周囲の環境の変化を感知して、自らのからだを適切な時期に適切な状態へと変化させていることを理解する。環境からの情報の伝達には、植物ホルモンがはたらいていることを理解する。	・動物の行動は、遺伝的にプログラムされた生得的な行動と経験によって変化する学習行動によって形成されることを理解している。a ・ショウジョウバエの求愛行動が、雄と雌の互いの行動によって連鎖的に進行していくことを、雌雄の神経回路の違いと関連づけながら説明することができる。b ・植物は周囲の環境の変化を感知して、その環境に応答することを理解している。a ・環境からの情報伝達に植物ホルモンがはたらいていることを理解している。a

					<ul style="list-style-type: none"> ・エチレンが空気中を拡散していることを確かめるためにどのような実験を行えばよいかを考え、説明することができる。b
7	2. 発芽の調節 3. 成長の調節	教科書 図説 問題集 授業プリント	9	<p>植物の種子が、周囲の環境を感知して休眠・発芽するしくみと、その意義を理解する。</p> <p>植物の成長は、光や重力などの要因によって調節されていることを理解する。植物の成長の調節には、植物ホルモンが重要なはたらきをしていることを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の種子が、周囲の環境を感知して休眠・発芽するしくみを理解している。a ・植物が重力方向を感知できなくなった場合、自然界での成長においてどのような不都合があるかを考え、説明することができる。b ・植物の器官の分化は周囲の環境の変化や成長の段階に応じて調節されていることを理解している。a ・光発芽種子の発芽条件と、樹木の葉群の上下での各波長の光の割合とを関連づけて、光発芽種子がもつ利点を見いだすことができる。b
8	4. 器官の分化と花芽形成の調節	教科書 図説 問題集 授業プリント	3	<p>植物は、葉、茎、根、花といった器官からなり、これらの器官への分化を通して植物が成長していくことを理解する。植物の器官の分化は、成長の段階や環境の変化に応じて調節されていることを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の器官の分化は周囲の環境の変化や成長の段階に応じて調節されていることを理解している。a ・花芽形成に関する実験結果をもとに、葉で感知された日長の情報がどのように伝達されるかを考え、説明することができる。b ・器官の分化と花芽形成の調節に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。c
9	5. 環境の変化に対する応答 6. 配偶子形成と受精 第7章生物群集と生態系 1. 個体群の構造と性質	教科書 図説 問題集 授業プリント	12	<p>植物が、環境要因の変化に応じて、気孔を開閉し、二酸化炭素や水の出入りを調節するしくみを理解する。</p> <p>植物が、病気や食害、生育に不適当な環境で、どのように自身を守っているのかを理解する。</p> <p>被子植物における配偶子形成と受精のしくみを理解する。種子の形成や果実の成熟のしくみを理解する。</p> <p>個体群の成長のしかたには個体群密度が影響していることを理解する。生物の生存曲線の型は、その生物の年齢ごとの死亡率によって大別されることを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・植物が水の出入りを調節するしくみを理解している。a ・植物の防御応答について理解している。a ・被子植物の配偶子形成と受精のしくみを理解している。a ・裸子植物と比較して、被子植物が行う重複受精にはどのような利点があるのかを考え、説明することができる。b ・個体群の成長には個体群密度が関係していることをしている。a ・個体群の個体数の変化には、その個体群の年齢構成や年齢ごとの死亡率などが影響することを理解している。a ・与えられた条件をもとに、個体群の個体数を推定することができる。b ・生存曲線のそれぞれの型が有利になる生息環境について、その生物

					がおかれている状況と年齢ごとの死亡率を関連させて推測し、説明することができる。b
10	2. 個体群内の個体間の関係 3. 異なる種の個体群間の関係	教科書 図説 問題集 授業プリント	12	同種の動物が集まって暮らすことで生じる利益と不利益を理解する。動物の個体群内の個体どうしの間で、どのような関係が見られるか理解する。 生態系は異なる生物種からなる個体群の集まりで構成されており、個体群どうしは互いに深く関係していることを理解する。生物群集の中で多様な生物種が共存できるしくみを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・群れや縄張りについて、その大きさに応じて生じる利益と不利益の兼ね合いによって、最適な大きさが存在していることを理解している。a ・最適な群れの大きさを決める要因を理解し、群れのおかれた環境に応じて時間の配分率のグラフがどのように変化するかを説明することができる。b ・生物群集には、捕食・被食や種間競争、共生などの種間関係があることを理解している。a ・生態系内で多種の共存を可能にしているしくみを理解している。a
11	4. 生態系の物質生産と物質循環 5. 生態系と人間生活	教科書 図説 問題集 授業プリント	9	上位の栄養段階の生物では、利用できるエネルギー量にかぎりがあることを理解する。生態系における物質の循環とエネルギーの移動について、それぞれの特徴を理解する。生態系や生物多様性の保全の重要性を理解する。人間活動によって生態系に影響を及ぼすしくみを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者の物質生産によって生態系内の生物に有機物やエネルギーが供給されることを理解している。a ・生態系では食物連鎖を通じて物質が循環し、エネルギーが移動していることを理解している。a ・生態系におけるエネルギー量とエネルギー効率を計算することができる。b ・生態系や生物多様性の保全の重要性を理解している。a ・人間活動が生態系に与える影響の例として、窒素排出量の増加や生息地の分断化などがあることを理解している。a ・植林活動と海の豊かさの関係について、学習したことをもとに、資料などにまとめて自分の言葉で説明することができる。b ・生態系と人間生活に関心をもち、主体的に学習に取り組める。c
12	総合問題演習	教科書 図説 問題集 授業プリント	9	全範囲 共通テストに向けて問題演習をし、理解を深める	問題演習を通して、知識や機能が定着している。a
1	総合問題演習	教科書 図説 問題集 授業プリント	9	全範囲 共通テストに向けて問題演習をし、理解を深める	問題演習で発見した苦手などについて、どのようにすれば克服できるかを考えられる。b 主体的に問題演習に取り組む態度がみられる。c

2	総合問題演習	教科書 図説 問題集 授業プリント	9	全範囲 個別試験に向けて問題演習をし、理解を深める	
---	--------	----------------------------	---	------------------------------	--

令和 7 年度 理 科 シラバス

科 目	発展化学	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	3 学年
使用教科書	化学基礎 (数研出版)				
補助教材等	サイエンスビュー化学総合資料 (実教出版) チェック&演習 化学基礎 (数研出版) セミナー 化学基礎 (第一学習社)				

1 学習の到達目標

- 1 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、発展的な内容を理解する。
- 2 目的意識を持って観察実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てる。
- 3 化学に興味を持ち自ら進んで理解を深めようとする態度を養う。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 講義の場合は、その日の授業でやると思われる教科書の範囲を読んでくること。
- 授業のあった日は必ず家で復習をすること。特に演習の時は、解けなかった問題をやり直すことが大切である。
- 受験に向けての学習は、「教えてもらう」というような受け身の姿勢では十分な学力が身に付かない。授業の進度に合わせる必要はないので、積極的に自ら進んで学習し、わからない箇所はすぐに質問すること。
- 週に2時間の授業だけではとても受験に対応できる学力は身に付かないので、できれば毎日、少なくとも2日に1日は化学基礎を学習する学習習慣を身に付ける。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	物質とその変化についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。
主な評価方法	・定期テストにおいて評価する	・定期テストやレポートにおいて評価する	・授業において、グループワークへの積極性や課題への取り組みを評価する

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4	物質の構成	全教材	6	純物質と混合物 物質とその成分 物質の三態と熱運動	(a)代表的な成分元素について検出法を理解し、実験を実施することができる。物質の三態について、熱運動のようすを踏まえて説明することができる (b)純物質と混合物の違いが何であるか説明できる。 (c)身のまわりの物質が純物質と混合物に分類されることに興味をもつ。
5	物質の構成粒子	全教材	8	原子とその構造 イオン 周期表	(a)単原子イオンの電子配置を示すことができる (b)原子の電子配置から、その原子がどのようなイオンになりやすいかを判断できる。 (c)各元素の特徴および周期表上の元素の配列について興味をもつ。
6	粒子の結合	全教材	8	イオン結合とイオン結晶 共有結合と分子 配位結合 分子間にはたらく力 高分子化合物 共有結合の結晶 金属結合と金属結晶	(a)化学結合の成り立ちとその特性を説明できる (b)化合物を構成する元素の種類から化学結合の種類を判断できる (c)身の回りの物質がどの化学結合で成り立っているか興味を持つ
7 8	物質質量と化学反応式	全教材	8	原子量・分子量・式量 物質質量 溶液の濃度 化学反応式と物質質量	(a)原子量・分子量・式量の定義を示すことができる。同温・同圧の気体の場合、1mol の体積が共通であることを理解する (b) mol を用いた計算をすることができる。2 種類の濃度の求め方を理解し、その換算ができる。化学反応式の係数から、物質の量的変化を質量や気体の体積変化でとらえることができる。 (c)物質質量の概念について興味をもち、粒子の数・質量・気体の体積との関係について説明できる。化学反応式をもとに量的な関係をつかむことができる。
9	酸と塩基の反応	全教材	8	酸・塩基 水素イオン濃度と pH 中和反応と塩 中和滴定	(a)酸性塩・塩基性塩・正塩などの分類について理解している。 (b)酸・塩基の性質を H^+ と OH^- で考える方法と、 H^+ の授受で考える方法から、酸と塩基を見きわめられる。塩の水溶液の酸性・中性・塩基

					性を判断し、説明することができる。 滴定曲線における pH 変化、中和点、使用できる指示薬について理解している。 (c)中和反応が H^+ と OH^- の反応であることに気づく。
10	酸化還元反応	全教材	8	酸化と還元 酸化剤と還元剤 金属の酸化還元反応 酸化還元反応の利用	(a)電子の授受により酸化還元反応が説明できることを理解している。酸化還元反応の量的関係を計算により求めることができる。 (b)酸化還元反応における酸化剤と還元剤のはたらきを電子の授受に着目して説明できる。金属固有の性質をイオン化傾向で考えることができるようになる。電池の基本的なしくみについて、イオン化傾向や電子の授受に着目して説明できる。 (c)身近にある電池の構造や反応のしくみに興味を示す。
11 月 以降	総合問題演習	チェック & 演習 化学基礎 (数研出版)	24	全範囲	(a) 問題演習で発見した不足している知識・技能を自身でまとめる (b)問題演習で発見した苦手などについてどのようにすれば克服できるかを考える (c)問題演習を通じて発見した気づきや苦手分野を自身でまとめる

令和 7 年度 理 科 シラバス

科 目	発展生物	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	3 学年
使用教科書	高等学校 生物基礎 (数研出版)				
補助教材等	リードα 生物基礎 (数研出版)				

1 学習の到達目標

<p>1. 生物学的な事物・現象について実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を培う。</p> <p>2. 生物学的な原理・法則などについて、科学的・統計的な手法を取り入れ、生物学的に考察し、処理する能力を育てる。</p>
--

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

<p>○共通テストに向けての学習も兼ねているので計画的に知識の整理と充実に心がけるようにする。</p> <p>○補助教材の問題集にしっかり取り組むことで定着が図られます。</p> <p>○自分が興味を持った分野に関連した一般書も読んでほしいと思います。大きな視野で生物を捉えることができるし、生物に関する知識や理解が幅広くなります。</p>
--

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	生命現象への理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。
主な評価方法	・定期テストにおいて評価する	・定期テストやレポートにおいて評価する	・授業において、課題や攻略表の取り組みを評価する

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	生物の多様性と共通性	教科書 問題集 授業プリント	6	生物は多様でありながら、共通性をもっていることを理解する。生物の共通性と多様性は、生物の進化の結果であることを理解する。 顕微鏡の使い方を習得する。	生物が「細胞からできている」、「生命活動にはエネルギーが必要」、「遺伝情報として DNA をもっている」などの共通性をもつことを理解している。a 原核細胞と真核細胞の共通点と相

					違点を見いだすことができる。b
5	エネルギーと代謝 呼吸と光合成	教科書 問題集 授業プリント	8	生命活動にはエネルギーが必要であることを理解する。細胞の生命活動のエネルギーは ATP の形で供給されることを理解する。 呼吸や光合成の過程で ATP が合成されることを理解する。酵素の特徴を理解するとともに、酵素によって生体内に必要な化学反応が進行することを理解する。	ATP が生命活動にエネルギーを供給するしくみについて理解できる。a 植物がエネルギーを取り入れる方法について説明できる。b 酵素の触媒作用と基質特異性について理解し説明できる。b 生体内の化学反応が、酵素のはたらきによって進行していることを理解する。a
6	遺伝情報と DNA 情報の複製と分配	教科書 問題集 授業プリント	8	DNA は 2 本のヌクレオチド鎖からなる二重らせん構造をしていることを理解する。遺伝情報は DNA の塩基配列にあることを理解する。 DNA が、半保存的に複製されることを理解する。細胞周期の進行に伴って、DNA が正確に複製され、2 つの細胞に分配されることを理解する。	DNA の構造および塩基の相補性を理解する。a DNA の構造を示した模式図に基づいて、塩基の相補性などの DNA の構造の特徴を見いだすことができる。b DNA が半保存的複製という方法によって正確に複製されることを理解できる。a 細胞当たりの DNA 量と細胞数の関係のグラフから、特定の条件で細胞周期の各期の長さを推定できることに気づくことができる。b
7	遺伝情報の発現	教科書 問題集 授業プリント	6	タンパク質のアミノ酸配列は、DNA の塩基配列によって決まることを理解する。個体を構成する細胞は遺伝的に同一であるが、細胞の機能に応じて発現している遺伝子が異なることを理解する。	DNA の遺伝情報をもとにタンパク質が合成される、転写・翻訳の過程を理解できる。a コドンが塩基 3 個の配列で 20 個のアミノ酸を指定している理由について考え、説明することができる。b
8	遺伝情報の発現	教科書 問題集 授業プリント	2	タンパク質のアミノ酸配列は、DNA の塩基配列によって決まることを理解する。個体を構成する細胞は遺伝的に同一であるが、細胞の機能に応じて発現している遺伝子が異なることを理解する。	分化した細胞では、細胞ごとに異なる遺伝子が発現していることを理解できる。a さまざまな生物とその遺伝子数を調べ、その生物の特徴と遺伝子数の関係についての自分の考えをまとめ、説明することができる。c
9	体内での情報伝達と調節	教科書 問題集 授業プリント	8	体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。自律神経系と内分泌系による情報伝達によって、からだの状態の調節が行われることを理解する。	体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解できる。a 身近な事例において、からだの状態がどのように変化するかを交感神経と副交感神経のはたらきに注目して考え、説明することができる。b
	体内環境の維持のしくみ	教科書 問題集	8	ホルモンと自律神経のはたらきによって、体内環境が維持されているこ	自律神経系と内分泌系のはたらきによって血糖濃度が調節されるしく

10	み 免疫のはたらき	授業プリント		とを理解する。 からだに、異物を排除する防御機構が備わっていることを理解する。免疫と病気の関係や、免疫が医療に応用されていることについて理解する。	みを理解できる。a I型糖尿病とII型糖尿病の違いに基づいて、糖尿病の検査内容や治療方法について、自ら調べたり、考えたりすることができる。c 自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたらく細胞の役割を理解できる。a 抗原が体内に侵入したときの、抗体の産生量の変化を示したグラフから、同じ感染症に再びかかりにくくなる理由を考えることができる。b
11	植生と遷移 植生の分布とバイオーム	教科書 問題集 授業プリント	6	植生の成りたちや相観について理解する。植生が時間の経過とともに移り変わっていくことを理解する 世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解する。気候条件によっては、遷移の結果として森林のほかに草原や荒原にもなることを理解する。	植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解できる。a 遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し、説明できる。b 世界および日本に見られるさまざまなバイオームが、気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解できる。a 特定の場所の植生が、時間の経過とともにどのように変化するかを推測し、説明することができる。b
12	生態系と生物の多様性 生態系のバランスと保全	教科書 問題集 授業プリント	6	生態系の成りたちを理解する。生物どうしの関係が種多様性の維持にかかわっていることを理解する。 生態系がもつ復元力について理解する。人間活動が生態系に及ぼす影響について理解する。生態系の保全の重要性について理解する。	生態系がどのように構成されているのかを理解できる。 生態系において種多様性が維持されるしくみを理解できる。 外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもとに、外来生物が在来魚に与えた影響を調べ、考察し、説明できる。bc
1	総合問題演習	教科書 問題集 授業プリント	6	全範囲 共通テストにむけて問題演習をし、理解を深める	問題演習を通して知識・技能が定着している。a 問題演習で発見した苦手などについてどのようにすれば克服できるかを考えられる。b 主体的に問題演習に取り組む態度が見られる。c
2	総合問題演習	教科書 問題集 授業プリント	6	範囲 問題演習を通して理解を深める	問題演習を通じて発見した気づきや苦手分野を自身でまとめる a 問題演習で発見した苦手などについてどのようにすれば克服できるかを考えられる。b 主体的に問題演習に取り組む態度が見られる。c

令和 7 年度 理 科 シラバス

科 目	発展地学	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	3 学年
使用教科書	「高等学校 地学基礎」(啓林館)				
補助教材等	「地学基礎 探究ノート」(数研出版) 「二訂版 ニューステージ 地学図表」(浜島書店)				

1 学習の到達目標

日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付け、科学的に探究する力を養う。また、地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

発展地学では2年生で学んだ地学基礎の分野を深く掘り下げていきます。地学は対象とするものが地球全体や宇宙にまで及ぶため、実験や観察を通して覚えられることは多くありません。したがって論理的な思考によって、図やグラフを理解することや、様々な計算を行うことが求められます。探究活動を中心に理論的に思考する方法を学んで下さい。ただし、論理的な思考をするためには基礎知識が重要です。2年生で学んだ内容を復習することが求められます。授業で思い出すのではなく、あらかじめ昨年度学んだ内容を復習した上で授業に臨むようにして下さい。受験では正確な知識と分析能力が問われます。結論だけでなくその課程を大切に学習を心がけて下さい。「なぜ?」と思考してみることが大事です。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	実社会での課題設定および課題解決につながる地学の知識や技能を身に付けて適切に使っている。	地学現象を論理的に考え、自分の中でモデル化できる。 他者の考えを認め合いながら、自分の考えを深めようとしている	自分の考えを整理し、積極的に発信しようとしている。 他者の考えを聞き、自分の考えも踏まえてまとめようとしている。
主な評価方法	・定期考査(知識の習得を問う問題)	・定期考査(論理的な思考力を問う問題) ・レポートの記述内容 ・グループで考える活動などの場面での観察	・授業中の発言内容や行動観察 ・グループで考える活動などの場面での観察

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教材	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	地球の概観 地球の内部構造	全教材	6	地球の概観について学び、その内部構造について理解する。	地球の形と大きさ、地球内部の層構造について理解することができる。 (a) 地球の形と大きさについて、観察や測定の結果などから考えることがで

					<p>きる。(b)</p> <p>地球内部の層構造とその状態について考えることができる。(b)</p> <p>地球の特徴に興味をもち、地球の形と大きさ、内部構造について調べようとする。(c)</p>
5	プレートテクトニクスと地球の活動 地震	全教材	8	プレートと地球の活動について学び、地質構造、変成岩の形成、地震について理解する。	<p>3種類のプレート境界と運動に伴う大地形や地質構造、変成岩の形成について理解することができる。(a)</p> <p>大地形や地質構造、変成岩の形成、地震のメカニズムについて、プレート運動と関連づけて考えることができる。(b)</p> <p>プレートの運動に興味をもち、プレート運動に伴う大地形や地質構造、変成岩の形成について調べようとする。(c)</p> <p>地震の発生のしくみについて振り返り、日常生活や社会に生かそうとする。(c)</p>
6	火山活動と火成岩の形成	全教材	8	火山活動、火成岩の形成について理解する。	<p>プレート境界やプレート内部における火山分布や火山活動の特徴を理解することができる。(a)</p> <p>組織と造岩鉱物の組成に基づいて、火成岩の分類を理解することができる。(a)</p> <p>火山活動のしくみについて、プレート運動と関連づけて考えることができる。(b)</p> <p>プレートの運動に興味をもち、プレート運動に関連する火山活動のしくみや火成岩の形成のしくみについて調べようとする。(c)</p>
7 8	大気圏 水と気象 地球のエネルギー 収支	全教材	8	大気の層構造および水と気象の関係について学ぶ。 地球全体のエネルギー収支について理解する。	<p>大気圏の層構造、雲の発生のしくみについて理解することができる。(a)</p> <p>地球全体のエネルギー収支が合っていることを理解することができる。(a)</p> <p>気圧や気温の鉛直方向の変化から、大気の層構造について考えることができる。(b)</p> <p>雲の発生のしくみについて、大気中の水蒸気のふるまいと関連づけて考えることができる。(b)</p> <p>地球全体のエネルギー収支について考えることができる。(b)</p> <p>大気圏の層構造、雲の発生のしくみについて振り返り、日常生活や社会</p>

					に生かそうとする。(c)
9	大気の大循環 海水の循環 日本の天気	全教材	8	大気の大循環や海水の循環について学ぶ。 日本で見られる冬から春, 夏から秋への季節の気象について学ぶ。	大気の大循環によって低緯度から高緯度へ熱が輸送されていることを理解することができる。(a) 海洋の層構造、海水の循環について理解することができる。(a) 季節ごとの偏西風の位置や季節風のしくみについて理解することができる。(a) 緯度によるエネルギー収支の違いとそれに伴う熱の輸送について考えることができる。(b) 季節ごとの偏西風の位置や季節風のしくみについて考えることができる。(b) 地球が宇宙との間でエネルギーを吸収・放出していることに興味をもち、緯度によるエネルギー収支の違いや、大気の大循環による地球規模の熱の輸送について調べようとする。(c) 日本の天気について興味をもち、日本の天気に影響を与える偏西風や季節風の特徴について調べようとする。(c)
10	宇宙の誕生 太陽系の誕生	全教材	8	宇宙のはじまりの様子や太陽系の誕生, および太陽系の各天体の特徴について学ぶ。	宇宙の誕生、恒星としての太陽の誕生について理解することができる。(a) 太陽系の各天体の特徴を比較し、地球が生命を生み出す環境となった理由について考えることができる。(b) 太陽系と地球の誕生の経緯に興味をもち、太陽系の誕生と太陽系の各天体の特徴, および地球が生命を生み出す環境となった理由について調べようとする。(c)
11	先カンブリア時代 顕生代	全教材	6	古生物の変遷と地球環境の変化について学ぶ。	大気や海洋, 気候などの地球環境の変化と生物の活動の相互関係について理解することができる。(a) 大気や海洋, 気候などの地球環境の変化と生物の活動の相互関係について考えることができる。(b) 古生物の変遷に基づいて地質年代が区分されることについて調べようとする。(c)
12	地層からわかること	全教材	6	堆積岩とその形成や地層について学び, 地球の歴史の組み立てにつ	流水のはたらきによって地層が形成されるしくみを理解することができる

	地層の形成 地層の読み方			いて理解する。	る。(a) 地質構造や化石などの地層の記録や、地層の対比などに基づいて、地球の歴史を知る方法について考えることができる。(b) 地球の歴史を知る方法に興味をもち、地質構造や化石などの地層の記録や、地層の対比などに基づいて、地球の歴史を知る方法について調べようとする。(c)
1	地球環境と人類 地震災害・火山災害 気象災害 災害と社会	全教材	6	地球環境に及ぼす人間活動の影響について理解し、日本の自然災害と防災について学ぶ。	人類が自然から受けている多様な恩恵や様々な災害について理解することができる。(a) 地域の特徴に合わせた防災対策について考えることができる。(b) 自然災害の観測方法と対策について振り返り、日常生活や社会に生かそうとする。(c)
2	人間生活と地球環境の変化	全教材	6	人間生活と地球環境の変化の関わりについて理解する。	人間生活と地球環境の変化との関わりについて理解することができる。(a) 人間生活と地球環境の変化との関係について考えることができる。(b) 自然との共生に興味をもち、人間生活と地球環境の変化との関係について調べることができる。(c)

令和 7年度 芸術(音楽)科 シラバス

科目	探求音楽	単位数	3	履修学年・クラス(講座)	3学年
使用教科書	教科書は使用しない				
補助教材等	なし				

1 学習の到達目標

基礎的な知識・技術の習得を発展的な探究活動につなげ、生涯にわたって音楽を愛好する態度を育てるとともに、音楽の活動を通して探究心や問題解決能力の育成を目指す。

2 学習方法等(授業担当者からのメッセージ)

○問題解決型の探究的な学習をメインに進めていきますので、毎回の授業には主体的に参加することを心掛けてください。

○課題にはチームとして協働的に取り組んでいきます。仲間の話をよく聞いたり、自分の考えを伝えるなど、コミュニケーションを大切にしてください。

○わかることやできることは、仲間に教えてあげましょう。わからないことやできないことは、仲間に教えてもらいましょう。

○自ら楽しむこと、楽しい雰囲気を作るように心掛けることが、楽しい授業になるポイントです。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	課題の目標を達成するために必要な知識や技術を身に付けている。	知識や技術をどのように活用して問題を解決するか、創意工夫を考えることができる。	自らアイデアを提案したり、仲間と協働して問題解決に向かう探究的な活動ができている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みの様子 ・振り返りの内容 ・発表などの内容 ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言や提案の内容 ・振り返りの内容 ・発表などの内容 ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みの様子 ・発言や提案の内容 ・振り返りの内容 ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 ～ 5	器楽合奏	ミュージックベル合奏	21	仲間と協力して、ミュージックベル合奏を完成させるために必要なことを自分たちで考え、練習を進めていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜を正確に読む知識(知) ・ミュージックベルで合奏を成立させるために必要な要素や要件を判断し、問題を解決する力(思・判・表) ・主体的にアイデアを提案し、仲間と協働して問題解決に向けて行動できる力(主)

6 ~ 7	歌唱表現	合唱	21	少人数での合唱を行い、ひとりひとりが単独でも歌えるようにする。 歌詞や曲調から表現方法を自分たちで考える。	・自分が担当するパートを、正しい音程やリズムで歌唱することができる。(知) ・他の人や他のパートとの関わりを理解し、目標達成のための創意工夫を考えることができる。(思・判・表) ・充実した合唱のために、主体的な姿勢で活動に参加している。(主)
8 ~ 9	器楽表現	ギター、ピアノ等の合奏	15	自分の使いたい楽器を用いてアンサンブルをおこなう。 楽曲の選定や構成の工夫を自分たちで考える。	・楽譜を正確に読む知識(知) ・ピアノやギター等で合奏を成立させるために必要な要素や要件を判断し、問題を解決する力(思・判・表) ・主体的にアイデアを提案し、仲間と協働して問題解決に向けて行動できる力(主)
10. ~ 12.	創作	音楽制作ソフトを使った作曲・編曲	30	「カトカトーン」を使って、自由なテーマで曲を作ったり、好きな曲をアレンジしてみる。	・イメージした旋律や和声などを形にできる知識や技術(知) ・旋律や伴奏などの創作表現を創意工夫している(思・判・表) ・主体的、協働的に創作学習活動に取り組もうとしている(主)
1 ~ 2	器楽表現	カップス	18	「Cupla Caps」紙コップを使ったリズム合奏。動画を参考にしながら、楽譜と楽譜を読み解くための英文をもとに、高度なリズム合奏を完成させる。	・主体的、協働的に問題解決に臨んでいる(主) ・物事を多角的、多面的にとらえ、問題解決のために創意工夫している(思・判・表) ・英語の指示を的確に理解して正確に楽譜を読み、正しいリズムや動作で合奏することができる(知)

○記載の単元や教材は各時間の主となる活動であり、この他に毎時の歌唱や楽典等の活動が加わる。

科目	発展音楽	単位数	2	履修学年・クラス(講座)	3学年
使用教科書	なし				
補助教材等	コールユーブンゲン				

1 学習の到達目標

基礎的な知識や技術を高めることで、社会や生活の中における音楽の役割を考える力や、生涯にわたり音楽を愛好する心情を養う。また、探求的な学習の中で好奇心や問題解決能力を高め、音楽を通じた学びを他の様々な場面で活用できる力を養うことを目標とする。

2 学習方法等(授業担当者からのメッセージ)

○メインとなるのは課題探究学習です。個人やグループで取り組む課題を設定し、最後には発表会での発表を行います。課題の内容は、演奏発表をはじめ、作曲などの創作、研究発表などです。

○課題探究学習のほか、コールユーブンゲンを使用してのソルフェージュ、合唱などを予定しています。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	読譜や演奏に必要な基礎的な知識や技術を身に付けている。	課題が適切に設定され、観客にも楽しんでもらえるような工夫が考えられている。	主体的に計画を立てて練習し、目標をもって練習や準備に励んでいる。仲間との協働的な活動において、進んで役割を果たすことができる。
主な評価方法	・コールユーブンゲンの歌唱テスト ・合唱の観察 ・課題探究の発表や授業内の取り組み	・課題探究発表や授業内の取り組み ・学習の記録	・授業内での活動観察 ・学習の記録 ・ ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 ~ 6	合唱	混声3部合唱曲	22	・パート練習 ・全体練習	・自分が担当するパートを、正しい音程やリズムで歌唱することができる。(知) ・他の人や他のパートとの関わりを理解し、目標達成のための創意工夫を考えることができる。(思・判・表) ・充実した合唱のために、主体的な姿勢で活動に参加している。(主)

7 ～ 11	課題探究		30	課題探究学習① ・テーマ設定 ・学習計画 ・探究学習 ・中間発表	・適切な課題設定と活動計画が立てられている。(思・判・表、主) ・演奏や発表に必要な知識や技術を身に付けている。(知) ・中間発表に向けて主体的な取り組みができてきている。(主)
12 ～ 2	課題探究		18	課題探究学習② ・探究学習 ・まとめの発表 ・振り返りとまとめ	・適切な課題設定と活動計画が立てられている。(思・判・表、主) ・演奏や発表に必要な知識や技術を身に付けている。(知) ・まとめの発表に向けて主体的な取り組みができてきている。(主)

○記載の単元や教材は各時間の主となる活動であり、この他に毎時の歌唱等の活動が加わる。

令和 7 年度 芸術 科 シラバス

科 目	発展美術	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	3 学年
使用教科書	美術 3 光村図書				
補助教材等					

1 学習の到達目標

課題を通して自分自身とは何か、自分が興味、関心を持てることは何かを探求します。自分にしかできない考え方や視点や表現を探することで、自分自身と深く向き合うことにつながります。

例えば鑑賞の分野において、どんなに歴史的に有名な作品であっても、その作品が全ての人に感銘を与えるとは限りません。同じ作品を観ても、人それぞれに感じ方が違うのです。それは作品そのものに絶対的な美しさや価値があるのではなく、作品を観る人が、みんな違った体験や価値観を持っているからなのです。美術作品に触れることで自分自身のルーツを探し、考えや価値観に気づくこと、美術という答えのない問に対して、自分なりの答えを導き出すことがこの授業の目標になります。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 与えられた授業時間のみで考えるのではなく、常日頃から造形的な見方や考え方で日常を見つめ直してください。「造形的な見方・考え方」というのは、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値を作り出すことです。
- 日常の視覚的な情報に注意深くなるために、日頃のアイデア、ドローイングをスケッチブックやロッキー帳に描きとめることが望ましいです。
- 授業時間の中で集中して制作、作業に取り組む過程と、ある程度の距離を取り、客観的に自己の作品を観る過程をもつことが重要です。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	造形的な視点を豊かにするための知識や表現における創造的な技能を身に付けて適切に使っている。	表現における発想や構想の能力、鑑賞における価値意識を伴った見方や感じ方を深めている。	制作に主体的に取り組み、美術を愛好する心情、豊かな感性や情操を深めている。学んだことを社会や生活に生かそうとしている。
主な評価方法	・提出作品 ・計画表の記述による知識の確認	・エスキース、計画表、提出作品による確認 ・プレゼンテーションでの発表の確認	・制作に取り組む姿勢 ・振り返りシートの記述による確認 ・生徒による自己評価や相互評価による確認

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
---	-----	-----	-----	---------	---------

4 5	オリエンテーション	教科書	14	<ul style="list-style-type: none"> ・美術全般ガイダンス ・美術に関わる専門的な多種多様な職種を知り、将来の可能性を考える。 ・教科書を中心とした鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術に関わる様々な分野に対する理解を深めている。(a)
6 7 8	各自の主題に応じた単元	各自必要な教材・資料・材料を準備する	16	<ul style="list-style-type: none"> ・自由課題制作 ・美術に関わる全ての分野から自己のテーマを選ぶ。 ・各自が選んだテーマの年間計画書を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に主題を生成している。(b) ・独創性、表現方法における個性の追求をしている。(b) ・造形の特徴などを基に全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。(a)
9 10			16	<ul style="list-style-type: none"> ・自由課題制作に関する研究 ・関連の資料を収集し各自のテーマに沿った作品制作、または論文、レポートを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が選んだ分野に対して更なる知識、技術の向上を図ろうとしている。(c)
11 12			12	<ul style="list-style-type: none"> ・前期プレゼンテーション・鑑賞会 ・自由課題制作 各自のテーマに沿った作品制作 	<ul style="list-style-type: none"> ・途中段階の作品を客観的に考察している。(b) ・作品の相互鑑賞をし、意見を交換することでプレゼンテーション能力を高めている。(c) ・意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。(a) ・表現形式の特性などについて考え創造的な表現の構想を練っている。(b)
1	鑑賞		6	<ul style="list-style-type: none"> 最終プレゼンテーション・鑑賞会 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の相互鑑賞をし、意見を交換することでプレゼンテーション能力を高めている。(c) ・表現を通して自己を見つめ直し、自分を知ることから社会へどのような働きかけができるかを考えるきっかけをつくらうとしている。(c)
2	鑑賞		6	<ul style="list-style-type: none"> 自由課題(卒業制作)校内展示 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内、校外の様々な人の目に触れて、反応や感想を聞くことで更なる創作活動の意欲につなげようとしている。(c)

令和 7 年度 芸術 科 シラバス

科 目	発展書道	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	3 学年
使用教科書					
補助教材等	中国法書選 (二玄社)、教科担当作成の手本等				

1 学習の到達目標

<p>多くの書に触れ、人物や時代背景、書体や筆法などを知り、それを表現しようと試みる。 また、多くの書表現に触れ、表現方法の幅広さを知り、感性を豊かにする。(知識・技能) 鑑賞したり臨書したりする中で、様々な表現方法や視点があることに気づき、多角的な視野を持って考え表現する力を養う。(知識・技能、思考力・判断力・表現力) 作品に対する意図を明確に持ち、それを表現するための方法を考え、判断し、表現しようとする姿勢を持つ。(思考力・判断力・表現力) 授業だけでなく日常生活の中でも積極的に芸術に触れ、多角的な視野を持って物事を捉えようとする姿勢や、自己の内面と向き合って主体的に自己表現をする力を身につける。(態度)</p>
--

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

<p>○様々な書作品に触れ、表現を学びます。得意なものがあればそうでないものもあるかもしれません。その要因がどこにあるのか考えることも大切です。多くの作品と向き合い、感じ、考えることを積極的に行ってください。 ○書道の学習を通して、多角的な視野や様々な視点を身につけ、それが書道の表現に生かされることが一つの目標です。その姿勢や能力は、他教科や人生の中の様々な場面で必ず生きてきます。芸術に触れることのできる貴重な時間です。人生を豊かにする能力を伸ばし、感性を豊かにし、社会で生きていく力が育つよう、主体的に学びましょう。</p>

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	書道全般や各古典について理解する。 基本的な筆遣いや各古典の筆法を知りそれを用いて書く。 分析的な鑑賞の仕方を身に付ける。	知識と技能を基に、制作するものに適した表現方法を模索してそれを表現しようと試みる。 共同制作で役割を考え状況を見て協力して行なう。	積極的に作品に触れ、鑑賞したり臨書したりする。 計画的に制作を進める。 共同作業で自ら主体的に行動する。
主な評価方法	・ 作品 ・ 記述による知識の確認 ・ 制作中の様子	・ 作品 ・ 制作中の様子 ・ プリントへの記述内容	・ 作品 ・ 取り組みの姿勢 ・ 自己評価

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	「千字文」	中国法書選	28	「千字文」臨書	・「千字文」の概要や特徴、人物や時代について理解(a)
5	臨書			・個人製作	

6 7				・共同作品 作品の相互鑑賞	・草書の崩し方を確認しながら正しく丁寧に臨書する(ab) ・書きぶりの統一された共同作品を仕上げる(b) ・集中して全臨に臨む(c)
8	信州書道 展出品作 品制作	プリント	2	「千字文」半紙六文字作 品臨書	・「千字文」の概要や特徴、人物や時代について理解(a) ・分析的に鑑賞する(ab) ・分析的鑑賞を基に意識して臨書する(abc)
9 10 11	カッティン グ作品制 作	中国法書選	22	古典の鑑賞 カッティング(色画用紙) 作品の相互鑑賞	・様々な古典を鑑賞し特徴を捉える(ac) ・好きな古典を見つけ、分析的に鑑賞する(b) ・正しく丁寧にカッティングする(ac)
12	お日限地 蔵尊書道 展出品作 品制作	プリント	3	半紙六文字作品臨書	・古典の概要や特徴、人物や時代について理解(a) ・分析的に鑑賞する(ab) ・分析的鑑賞を基に意識して臨書する(abc)
1	石碑の拓 本を採る	石碑レプリ カ 校歌石碑	5	拓本の採り方を知る 石碑レプリカを用いて拓 本を採る 校歌の石碑の拓本を採 る	・拓本の採り方を理解(a) ・道具を正しく丁寧に扱う(ac) ・主体的に行動する(c) ・協力して一つの拓本を仕上げる(bc)
1 2	古典鑑賞 と臨書	中国法書選	10	古典鑑賞と臨書	・古典の概要や特徴、人物や時代について理解(a) ・分析的に鑑賞する(ab) ・分析的鑑賞を基に意識して臨書する(abc)

令和 7 年度 英語科 シラバス

科目	外国語・探求英語Ⅱ	単位数	2単位	履修学年・クラス（講座）	3学年
使用教科書	Cutting Edge				
補助教材等					

1 学習の到達目標

<p>英文の構造を十分に理解し、内容を正確に読み取る。 聞かれている内容がどこに書いてあるのか、短時間でわかるような能力を付ける</p>
--

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

<p>○英語学習は、繰り返し繰り返し、根気強く取り組むことしかありません。わからないところは自分で納得のいくまで、追求しましょう。</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
--

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	文法事項の理解度や単語、構文等の習得度。	文章内容の理解度や表現の能力。	提出物等の提出状況等。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査後の提出物 ・ ・ ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5 6	Chapter 1 ~ Chapter4	Cutting Edge	17	食事とCO2 必要水分量 英語の変遷 トランスヒューマン	A: 目標を十分達成できた B: 目標をおおむね達成できた C: さらに努力を要する
7 8 9	Chapter5 ~ Chapter9	Cutting Edge	18	絶滅危惧種 嘘も方便 火の制御とその効果 老人ホームへの贈り物 生活賃金	A: 目標を十分達成できた B: 目標をおおむね達成できた C: さらに努力を要する
10 11 12	Chapter10 ~ Chapter14	Cutting Edge	18	アフリカのブランド商品 サンゴ礁 緑色の血液 文明の隆盛 豪華客船の沈没	A: 目標を十分達成できた B: 目標をおおむね達成できた C: さらに努力を要する
1 2	Chapter15 ~ Chapter18	Cutting Edge	17	教育と報酬 自動運転車 睡眠の常識 幸福感	A: 目標を十分達成できた B: 目標をおおむね達成できた C: さらに努力を要する

令和 7 年度 英語科 シラバス

科目	外国語・発展英語	単位数	3 単位	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	Cutting Edge				
補助教材等	共通テストドリル 英語リスニング 10minutes				

1 学習の到達目標

<p>英文の構造を十分に理解し、内容を正確に読み取る。 聞かれている内容がどこに書いてあるのか、短時間でわかるような能力を付ける</p>
--

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

<p>○英語学習は、繰り返し繰り返し、根気強く取り組むことしかありません。わからないところは自分で納得のいくまで、追求しましょう。</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
--

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	文法事項の理解度や単語、構文等の習得度。	文章内容の理解度や表現の能力。	提出物等の提出状況等。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査後の提出物 ・ ・ ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5 6	Chapter 1 ~ Chapter 4 共通テストド リル英語リ スニング	Cutting Edge 1 ~ 10	17	食事とCO2 必要水分量 英語の変遷 トランスヒューマン	A: 目標を十分達成できた B: 目標をおおむね達成できた C: さらに努力を要する
7 8 9	Chapter 5 ~ Chapter 9 共通テストド リル英語リ スニング	Cutting Edge 11 ~ 20	18	絶滅危惧種 嘘も方便 火の制御とその効果 老人ホームへの贈り物 生活賃金	A: 目標を十分達成できた B: 目標をおおむね達成できた C: さらに努力を要する
10 11 12	Chapter 10 ~ Chapter 14 共通テストド リル英語リ スニング	Cutting Edge 21 ~ 25 パワーアップ 1 ~ 10	18	アフリカのブランド商品 サンゴ礁 緑色の血液 文明の隆盛 豪華客船の沈没	A: 目標を十分達成できた B: 目標をおおむね達成できた C: さらに努力を要する
1 2	Chapter 15 ~ Chapter 18 共通テストド リル英語リ スニング	Cutting Edge パワーアップ 11 ~ 25	17	教育と報酬 自動運転車 睡眠の常識 幸福感	A: 目標を十分達成できた B: 目標をおおむね達成できた C: さらに努力を要する

令和 7 年度 国語科 シラバス

科目	探求現代文	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	3 学年
使用教科書	「論理国語」（数研出版）「探求文学国語」（桐原書店）				
補助教材等	論理国語準拠ワーク（数研出版）探求文学国語準拠予習復習ノート（桐原書店）				

1 学習の到達目標

評論・小説それぞれのジャンルに即した読解力を養い、内容を的確に把握する力を身に付けるとともに、自分のものの見方、感じ方、考え方を深化させる。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

様々な文章に触れながら読解力の向上を目指し、自分自身のものの見方、感じ方、考え方を広げ深めましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	文章中の語彙や表現技法を正しく理解しているか。	様々な文章をその構成・展開・要旨などに注意しながら読み、自分の考え方を広げているか。	国語を主体的に探究しようとする態度が養われているか。
主な評価方法	3回の考査の知識問題	3回の考査の思考問題	提出物や授業への取り組み方

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5 6	「現代文を読み、構成を捉えながら内容を読み取る①」	・「いき」の美学 ・「である」ことと「すること」 ・ランドセル	33	・評論を読み、その構成・展開・要旨などを、文章に即して的確に読み取る。 ・小説を読み、場面や登場人物の描写を的確に捉える。	文章中の語彙や表現技法を正しく理解している。(a) 様々な文章をその構成・展開・要旨などに注意しながら読み、自分の考え方を広げている。(b)
7 8 9	「現代文を読み、構成を捉えながら内容を読み取る②」	・「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」 ・復讐 ・檸檬	24	・評論を読み、その構成・展開・要旨などを、文章に即して的確に読み取る。 ・小説を読み、場面や登場人物の描写を的確に捉える。	文章中の語彙や表現技法を正しく理解している。(a) 様々な文章をその構成・展開・要旨などに注意しながら読み、自分の考え方を広げている。(b)
10 11 12	「現代文を読み、構成を把握し内容を的確にとらえる」	・環境と心の問題 ・畜犬談 ・変身	30	・評論を読み、その構成・展開・要旨などを、文章に即して的確に読み取る。 ・小説を読み、場面や登場人物の描写を的確に捉える。	文章中の語彙や表現技法を正しく理解している。(a) 国語を主体的に探究しようとする態度を養おうとしている。(c)
1	「現代文を	・顔の所有	18	・評論を読み、その構成・展開・要	文章中の語彙や表現技法を正しく

2	読み、構成を把握し内容を解釈する」	・舞姫	<p>旨などを、文章に即して的確に読み取る。</p> <p>・小説を読み、場面や登場人物の描写を的確に捉える。</p>	<p>理解している。(a)</p> <p>様々な文章をその構成・展開・要旨などに注意しながら読み、自分の考え方を広げている。(b)</p>
---	-------------------	-----	---	---

令和 7 年度 国語科 シラバス

科目	実用国語	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	3 学年選択講座
使用教科書					
補助教材等	第一学習者「小論文頻出テーマ チェック&ワーク」				

1 学習の到達目標

国語に関する基礎知識を定着させる。また、様々な文章に触れることにより、自分の考えや思いを相手に伝える文章表現力を養う。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

様々な文章に触れながら表現力の向上を目指します。小論文の練習にも繋がりますので意欲的に取り組みましょう。
--

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	語彙や表現技法の知識を身につけているか。	様々な表現技法を丁寧に読み、自分の文章で表現することができているか。	国語を主体的に探究しようとする態度が養われているか。
主な評価方法	3回の考査の知識問題	3回の考査の思考問題	提出物や授業への取り組み方法

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5 6	「生活と社会」「環境」「国際問題」「教育」	上記参照	3 3	「生活と社会」「環境」「国際問題」「教育」に関する語彙の確認。それぞれのテーマに関連する課題の発見。課題に対する小論文。他者への発表。	上記参照
7 8 9	「福祉」「政治経済」「メディア」	上記参照	2 4	「福祉」「政治経済」「メディア」に関する語彙の確認。それぞれのテーマに関連する課題の発見。課題に対する小論文。他者への発表。	上記参照
1	「科学技術」	上記参照	2	「科学技術」「医療・看護」に関する	上記参照

0 1 1	「医療・看護」		1	語彙の確認。それぞれのテーマに関連する課題の発見。課題に対する小論文。他者への発表。	
-------------	---------	--	---	--	--

令和 7 年度 国語 科 シラバス

科目	発展国語	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	3 学年選択講座
使用教科書					
補助教材等	「現代文重要キーワード書き込みドリル」(旺文社)				

1 学習の到達目標

<p>「現代文」 評論・随想・小説各ジャンルの文章を読み問題演習を行うことで、語彙・論理展開等を身につけるとともに、「教材を情報として受け取り、解釈して的確な方法で表現する力」を磨く。</p> <p>「古典」 古文・漢文の問題演習を通して、古文単語、古典文法、句形等の既習事項の確認と定着を行う。文章から文化を学ぶことにより豊かな感性を育てる。</p>
--

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

○色々なジャンルの文章を読む学習の中で確かな知識・技術を身につけて「話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと」の力を更に伸ばしましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	語彙や文法の知識を身につけているか。	本文の構造や文法事項を理解したうえで本文の読解問題や、書かれていることについて具体的に考察できているか。	国語を主体的に探究しようとする態度が養われているか。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査結果 学習プリント記述内容 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査結果 学習プリント記述内容 発言時の内容 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題の取り組み 授業中の行動観察 ペア、グループワーク時の行動観察 ふりかえりの記述内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5 6	「現代文の語彙・構成・論理展開を学ぶ①」	現代文重要キーワード書き込みドリル ステップ 1～2 学習プリント	33	<ul style="list-style-type: none"> 現代文読解に必要な語句を学ぶ。 評論の論理展開について理解を深める。 評論の型「論」と「例」、「対比」「具体と抽象」について学ぶ。 	語彙や文法の知識を身につけている。(a) 本文の構造や文法事項を理解したうえで本文の読解問題や、書かれていることについて具体的に考察できている。(b)
7 8	「古典文の語彙・構成を学ぶ①」	学習プリント	12	<ul style="list-style-type: none"> 古文読解に必要な語句を学ぶ。 古典文法の「用言」「助動詞」「助詞」「敬語表現」について学ぶ。 古文作品を読み構成を捉え内容 	語彙や文法の知識を身につけている。(a) 本文の構造や文法事項を理解したうえで本文の読解問題や、書かれ

				を解釈する。	ていることについて具体的に考察できている。(b)
9	「現代文の語彙・構成・論理展開を学ぶ②」	現代文重要キーワード書き込みドリル ステップ3 学習プリント	12	<ul style="list-style-type: none"> ・現代文読解に必要な語句を学ぶ。 ・「論」と「例」、「対比」「具体と抽象」の観点を有しながらより難易度の高い問題に取り組む。 	<p>語彙や文法の知識を身につけている。(a)</p> <p>学習課題に主体的に取り組み、国語を探究しようとする態度を養おうとしている。(c)</p>
10	「古典文の語彙・構成を学ぶ②」	学習プリント	12	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文読解に必要な語句を学ぶ。 ・漢文読解に必要な句法について学ぶ。 ・漢文作品を読み構成を捉え内容を解釈する。 	<p>語彙や文法の知識を身につけている。(a)</p> <p>本文の構造や文法事項を理解したうえで本文の読解問題や、書かれていることについて具体的に考察できている。(b)</p>
11	「現代文の語彙・構成・論理展開を学ぶ③」	現代文重要キーワード書き込みドリル ステップ4 学習プリント	9	<ul style="list-style-type: none"> ・現代文読解に必要な語句を学ぶ。 ・小説読解の基本である「心情理解」について学ぶ。 ・小説作品を読み構成を捉え内容を解釈する。 	<p>語彙や文法の知識を身につけている。(a)</p> <p>本文の構造や文法事項を理解したうえで本文の読解問題や、書かれていることについて具体的に考察できている。(b)</p>
12 1 2	「現代文・古典文において構造や文法事項を理解したうえで内容を解釈し自分の考えを広げる」	現代文重要キーワード書き込みドリル ステップ1～4 学習プリント	27	<ul style="list-style-type: none"> ・現代文、古典文の読解に必要な語句を学ぶ。 ・評論・随想・小説・古文・漢文の作品を読み、的確な読解と解釈を試みる。 ・作品の感想を交流し自分のものの見方、考え方を広げる。 	<p>語彙や文法の知識を身につけている。(a)</p> <p>学習課題に主体的に取り組み、国語を探究しようとする態度を養おうとしている。(c)</p>

令和 7 年度 地理歴史 科 シラバス

科 目	近代日本史	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	3年
使用教科書	教科書 「詳説日本史」(山川出版社)				
補助教材等	資料集「新詳日本史」(浜島書店)、史料集「新編史料日本史」(とうほう)				

1 学習の到達目標

政治史・社会史の展開と合わせて、日本列島の文化について諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に考察させる。さらに各時代の歴史的背景に触れながら日本列島に展開した文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる自覚と資質を養う。適宜、発展的問題演習を行う。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 3回の考査で知識、技能、思考、判断を図る
- 授業ごとの小テスト、授業中でのグループワークを通じて学習に取り組む態度を図る

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているか。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察できているか。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察ができているか。
主な評価方法	三回の考査の知識問題	三回の考査の思考問題	グループワークや小テスト。普段の授業態度

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 5	第3章 4 幕藩体制の動揺と庶民文化の発達 第4章 1 開国から明治維新	上記参照	21	◎産業や交通網の発展に伴う都市の繁栄と庶民生活の変化、飢饉や一揆の発生と幕政の改革、諸外国の接近と幕藩体制の動揺、学問・思想の展開と近代の萌芽などに関して、総合的に理解する。 開国と幕末の動乱について、国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、開国から明治維新に至るまでの過程を社会・経済面での変化とかわらせて考察する。また幕末の動乱における天	(a)江戸時代の社会の構造を理解している。 (b)この当時の人々の生活の具体相について、根拠を示して表現している。 (c)この時期の様々な出来事について考察し、主体的に追究しようとしている。

				皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の掃蕩に至るまでの経過を理解する。	
6	2立憲政治の形成と国民文化		12	◎明治維新以後の近代化について、諸国との関係に注目しつつ、近代国家と立憲主義及び資本主義発達の特質と社会問題を理解する。	(a)明治政府による中央集権化の諸政策と士族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮について、諸資料から情報を読み取って理解している。 (b)社会構造の変化や地方自治の展開について多面的・多角的に考察し、表現している。 (c)日本における立憲政治の導入がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。
7 8	3日本の近代化と東アジア		12	◎日清・日露の両戦争に至った歴史的背景を踏まえ、日本がアジアとった行動を帝国主義の国際情勢の中で理解する。	(a)この時期の戦争の様相や背景、日本の国際的地位の変化を理解している。 (b)戦争と国民の関わりについて多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。 (c)対外的な戦争が日本の近代化の過程の中でもった意味を考察し、主体的に追究しようとしている。
9	4デモクラシーと第一次世界大戦		12	◎政党政治と大正デモクラシーの特質を把握し、第一次世界大戦及び戦後の国際関係に関連させて理解する。	(a)この時期の国内の様相や背景、変化を理解している。 (b)この時期の事件と国民の関わりについて多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。 (c)引き続き日本の近代化の過程の中でもった意味を考察し、主体的に追究しようとしている。
10	5激動する世界と日本		12	◎大戦後の経済的危機から日中全面戦争に至る過程を、政党政治の崩壊と中国の動向と関連させて理解する。	(a)軍部の台頭と対外政策について理解している。 (b)当時の社会が抱えた矛盾と満洲事変などの対外政策、国内での軍部の政治的進出などの諸事象を相互に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。 (c)軍部の政治的台頭がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。
11	第5章現代の世界と日本		9	◎戦後の民主化と復興を、冷戦下の世界の動向と関連づけて考察する。 ◎55年体制の特質と高度経済成長による国民生活の変容や平和国家、経済大国としての世界的な役割を理解する。	(a)戦後の日本の民主化の過程を理解している (b)民主化の過程における諸事象を相互に関連付けて多面的・多角的に考察し表現できる。 (c)現代日本の諸課題を主体的に研究しようとしている。

12 1	特編授業		18	<p>◎全ての時代の過程における政治・社会的背景や国際関係を踏まえて復習する。</p> <p>◎文献資料に加えて、写真や映像等の資料を通じて主に私立大学入試への対応力涵養を図る。</p>	<p>(a)すべての時代の特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を理解している</p> <p>(b)すべての時代の特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を多面的・多角的に追究している</p> <p>(c)すべての時代の特徴について、当時の政治・社会的背景や国際関係を主体的に追究している</p>
---------	------	--	----	---	---